



葛飾北斎「浮世草子」より

平成24年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

山口町人安部氏の奥州旅日記

② 「みちのく行」

No.6

終

しつりびんせいのまたし
果

▲ 多湖浦

あまのこひあけのこひ
たこは浦しよあそび

▲ 玉田横地

えつるけむ田代とるれ
てしあしあそび

▲ コツルカ地

ちよみすむつるか地
おわあそびとるれ

▲ 燕沢 二子と観立月



▲ 東方松山 宝園寺

東方松山かありし
七きりまのこころ

▲ 沖の井

沖の井あまのこひ
ちよみすむつるか地

▲ 伊石
こころをそら

。今八里中二十尺の
石中に池上ニアリ。

ひこり

ひこりもきり

かきくま

右ハ

る

江戸平井口にある性之屋三

の男後後御免より公取

区之版ツとテ五三番地ヲお取

口ヨリ毒ノ碑一三丁中

三徳寺ノ松ノ下ニ
▲ 毒ノ碑

タタタ城跡ニ



さうはくわのまてしれあハ

まおたしししよ
アホのりた

▲ 本松山の本光寺



▲ 戸施ノ寺

あやししとてふるまふあは
あつた日あつたしのかか



あつたはらのついでのことかたけに

▲おくのありとてら

▲十名の比

みちたの十名のみこととてら
てらみとてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら

▲みつ神祠

▲古古日家

たきとてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら

▲血引石

△

▲ミミ山

▲真山

おく山とてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら

根の古木山のありとてら
てらとてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら

▲野田玉川

みちたのてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら
てらとてらとてらとてら

▲ 石もかくのし

つらむしりしむすのあしよふなぬい
ふり
ふり
ふり
ふり
ふり

▲ 浮島松



塩釜のうしあすほのあけかた
つまごうたごころうまの松

▲ 松ヶ崎



まつまきく松ヶ崎のまきあし
まつまきく松ヶ崎のまきあし

▲ 千賀塩釜

千賀州一宮塩釜宮

御山又三治氏
泉三郎又治氏
寄道
有

別宮 右宮の左宮

別當 金麦明山 大つね



右ノ外 谷ノ末 掃多ト庄コト
ノスルニ イトアツク又ヨニト 田谷也

塩釜宮ノ末

江戶正可月...

大田左門右衛門

一十九日快晴早朝 塩釜宮詣

夫ヨリ宇傳出雲守訪上置得

妻お教ヨリ ○夫ヨリ大川左衛門

付蘭可申二

开御釜有  石井

○以ヨリ松島一是日ハ...

折明一昨夜月君ノ出和山縣

家中是潤由是是是 比戸核山一丁目

得宗保之友日知田糸守印定...

金五兵衛ハ...

お人以外方三人ト...

折明折明折明...

尾中島...

多文為 多浦三つを 全をり例
谷有島山

達伸 此の如くは 此の如くは 此の如くは
リリリリリ 此の如くは 此の如くは 此の如くは

東面より海より三つ江の川三里七十三家
ねるの馬くまを祀る三つ江より

ツハ急モノハスヲ揚外モノハ波三浦
自爾アハニキニニニニニニニニニニニ

アリ抱ルアリ 来ウキウキウキハあまの
ゆき来傳つてて来りて川もく

ばぬてくれししししししししししし
ありの達伸あかあるししししししし

交へんたれししししししししししし
此の如くは 此の如くは 此の如くは

五方者 月又山壽 此の如くは 此の如くは
おれの手折りししししししししししし

何處西湖 社下し 此の如くは 此の如くは

五方... 有風の亭... 移馬... 大... 秀...

何... 西湖... 社... 若... 名...

何... 山... 僧... 也...

○瑞定行... 山内...

瑞 嶽 三 位
圖 福 妙 心
禪 寺 和 樂

瑞 嶽 三 位
禪 寺 和 樂

御本意

礼在間

...

右...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

申すに在る洞有る高松ノ果野ノ後
此大洞ニ安居ノ寸最明ニ入
所ノ甲居ノ所ナリ洞中ニ

最明寺 富文寺 平野頼道 崇信 吉士

左右ノ赤山ニ御玉屋有

去ヨリ立大空

ノ一見ニ于

日亡西山ニカクキキキニ同伴人
為物ニ悟テ亦しと云々是王

言約毎ノ前

朽ノ末

高ノ山ノ末

一 戒日曉天ニ 大雨ニホクマリ
辰下割ニヨリキキ